

在宅医療・介護連携推進事業における課題について（アンケート）

職種：

資料7

目的：令和6年度の在宅医療・介護連携推進協議会のテーマを検討します。

検討事項を決めるにあたり、厚労省より推奨されている4つの場面においての、現状・課題について各職種から意見をいただきたいと思います。

いただいたご意見をまとめて、令和6年度に多摩市在宅医療・介護連携推進協議会で多摩市としての今後の方針等を協議していく予定です。

<参考>厚労省老健局老人保健課「在宅医療・介護連携推進事業の手引き Ver.3」令和2年9月 より一部抜粋

・在宅療養者の生活の場において、医療と介護の連携した対応が求められる場面を意識した取り組みが必要である。

4つの場面とは在宅療養の中の①日常の療養支援②入退院支援③急変時の対応④看取り

・4つの場面ごとの現状分析・課題抽出等を行い、地域のめざすべき姿を必ず設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定することが重要である。

※今回各職種の立場からご意見は、方法は任意ですが各職種からの意見としての了承を得てください。3月15日締め切り。

	多摩市高齢者在宅療養支援窓口 現状（参考例）	多摩市高齢者在宅療養相談窓口 課題（参考例）	現状	課題
①日常の療養支援 ※厚労省の例示する「めざすべき姿」 医療・介護関係者の多職種協働によって、患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とするじょうたいの高齢者が住み慣れた場所で生活ができるようにする。	・多摩市高齢者在宅療養支援窓口の認知度が低い。 ・在宅療養や在宅医療についての認知度が低い。 ・他科併用医療機関の紹介依頼が多い ※専門職向けリスト作成した	・コロナ禍で、顔の見える関係づくりが希薄になり、新規開設事業者が関係づくりに苦慮している。		
②入退院支援 ※厚労省の例示する「めざすべき姿」 入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。	・緊急入院紹介依頼の相談もあり。 ・コロナ対応医療機関のニーズあり。 ・23区の病院からも、退院連携の問い合わせが増えてきた。	・在宅支援が必要でも、何の連絡もなく退院してくるパターンもまだある。 ・入退院支援のルールが統一されていない。		
③急変時の対応 ※厚労省の例示する「めざすべき姿」 医療・介護・消防(救急)が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応をふまえた適切な対応が行われるようにする。	・急変時の対応に対する、不安が強い相談が多々ある。	・在宅での看取りを希望していても、急変すると家族が焦り救急車を呼んでしまい、希望していなかった蘇生処置がなされてしまうこともある。 ・ACPの理解と普及が不足している。		
④看取り ※厚労省の例示する「めざすべき姿」 地域住民が、在宅での看取り当について十分に認識・理解した上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。	・看取りについての相談が年宛増加 ・ACPの講義依頼も昨年より増えてきた ・在宅での死亡の増加。	・家族には意思を確認しても、本人がどう思っているか確認していないケースもある ・ケアマネジャー・訪問介護等介護保険サービスの人材不足		

ご協力ありがとうございました。

問い合わせ先 高齢支援課 地域ケア推進係 萩原・中島 042 (338) 6846